千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第48週（11/25-12/1）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数		48週	47週	46週	45週
	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市 注意報	千葉市 11/25-12/1 48週	千葉市 11/18-11/24 47週	千葉市 11/11-11/17 46週	千葉市 11/4-11/10 45週	千葉県 11/18-11/24 47週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	2 0.11	1 0.06	22 0.16
	咽頭結膜熱	○	8 0.44	6 0.33	6 0.33	5 0.28	51 0.38
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		44 2.44	49 2.72	46 2.56	39 2.17	479 3.55
	感染性胃腸炎		102 5.67	67 3.72	60 3.33	50 2.78	441 3.27
	水痘		11 0.61	2 0.11	9 0.50	2 0.11	52 0.39
	手足口病		19 1.06	16 0.89	29 1.61	23 1.28	173 1.28
	伝染性紅斑	○	15 0.83	5 0.28	5 0.28	5 0.28	55 0.41
	突発性発しん		8 0.44	9 0.50	5 0.28	10 0.56	47 0.35
	ヘルパンギーナ		1 0.06	1 0.06	3 0.17	1 0.06	10 0.07
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	14 0.10
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）	○	75 2.68	48 1.71	85 3.04	18 0.64	485 2.26
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	1 0.20	2 0.40	0 0.00	17 0.49
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 1.00	10 1.11
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（8件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	50歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	70歳代	血清抗体の検出
結核	女性	60歳代	胸水ADA値の上昇	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出

・第48週は、　結核4件（150）、腸管出血性大腸菌感染症1件（19）、梅毒2件（32）、風しん1件（47）の報告があった。

※　（）内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

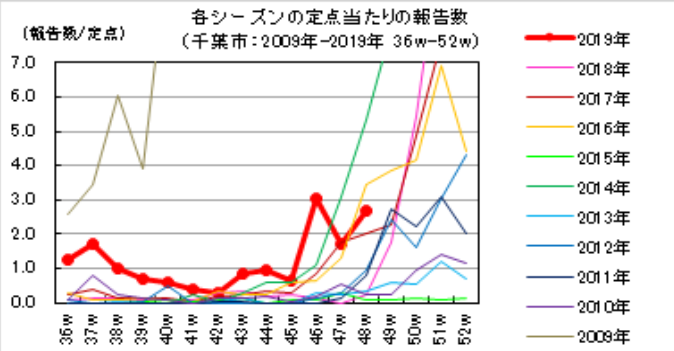
定点当たり報告数　第48週のコメント

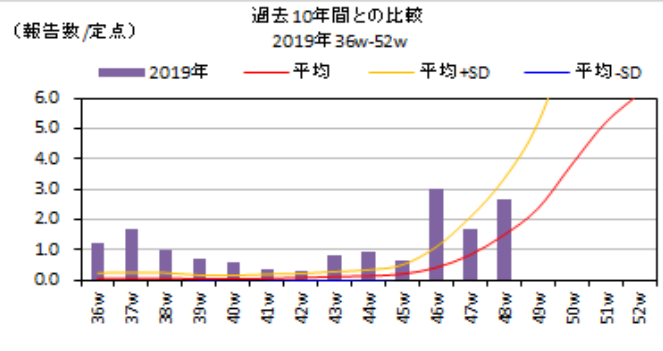
＜**咽頭結膜熱**＞前週より増加し0.44となった。過去10年の同時期と比べると最多。
＜伝染性紅斑＞前週より増加し0.83となった。過去10年の同時期と比べると多い。
＜**インフルエンザ**＞前週より増加し2.68となった。過去10年の同時期と比べると多め。

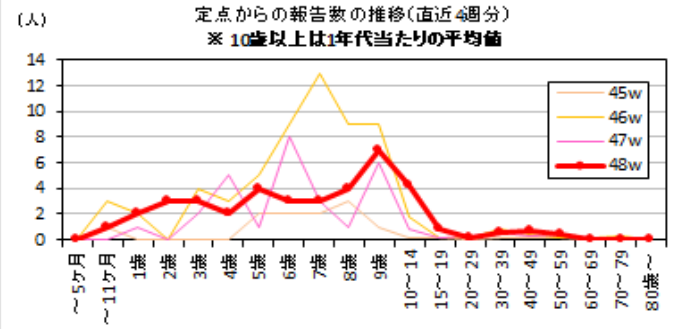
■ トピック ■

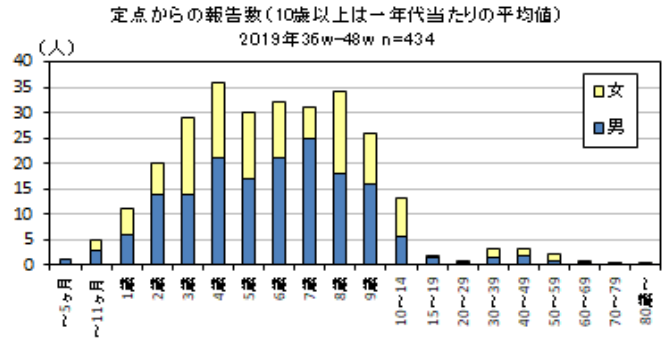
＜インフルエンザ＞

全国レベルの第47週の定点当たりの報告数は3.11となり、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多となっています。都道府県別では北海道、青森県、石川県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.26で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第48週は前週より再び増加し2.68となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、美浜区（6.33/定点）で最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは9歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第48週までの累積報告数は434件で、性別では男性が55.5%（241名）、女性が44.5%（193名）となっており、年齢階級別では4歳（8.29%：36名）、8歳（7.83%：34名）、6歳（7.37%：32名）の順で多く、20歳未満が全体の75.6%（328名）、10歳未満が全体の58.8%（255名）となっています。



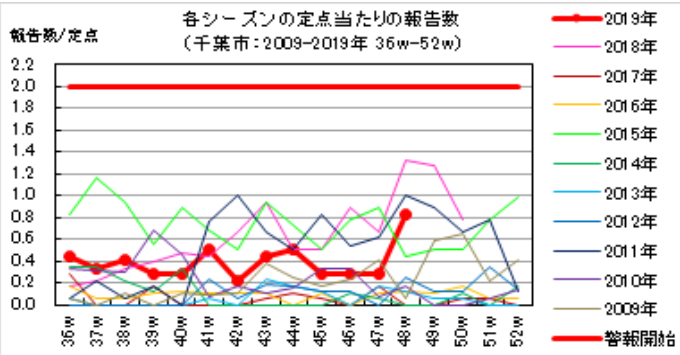


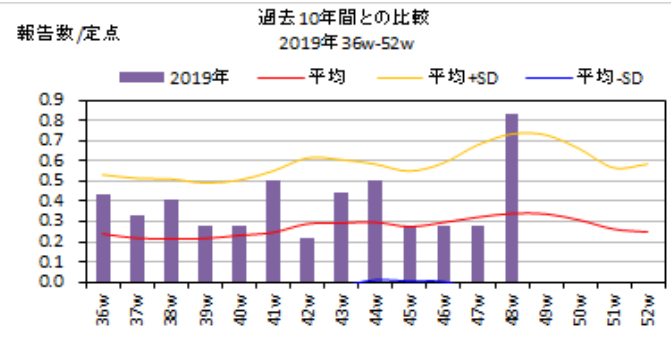


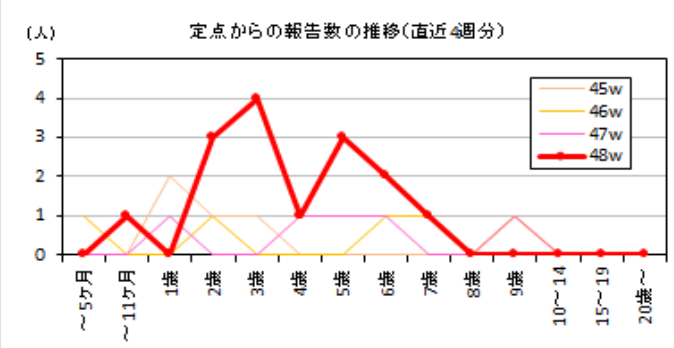


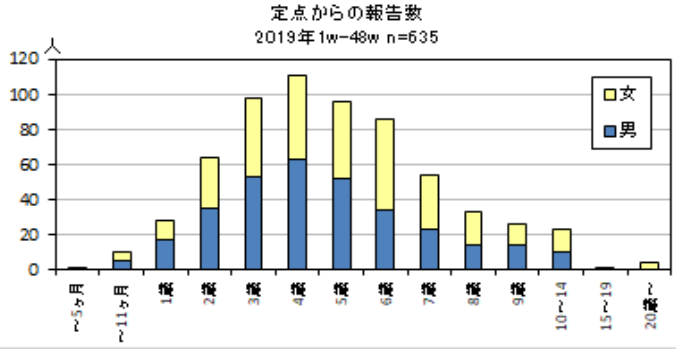
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第47週の定点当たりの報告数は0.55となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では熊本県、長崎県、大分県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.41で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市では第33週から過去10年間の平均を挟んで上下しながら推移していましたが、第48週は前週より増加し0.83となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は、若葉区（2.50/定点）で流行発生警報開始基準値（2.0/定点）を上回り最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第48週までの累積報告数は635件で、性別では男性が50.6%（321名）、女性が49.4%（314名）となっており、年齢階級別では4歳（17.5%：111.名）、3歳（15.4%：98名）、5歳（15.1%：96名）の順で多くなっています。



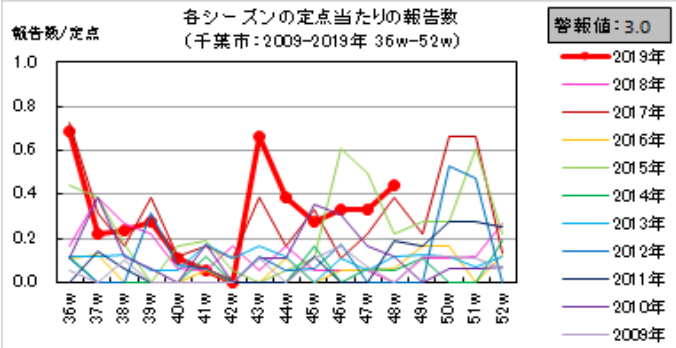


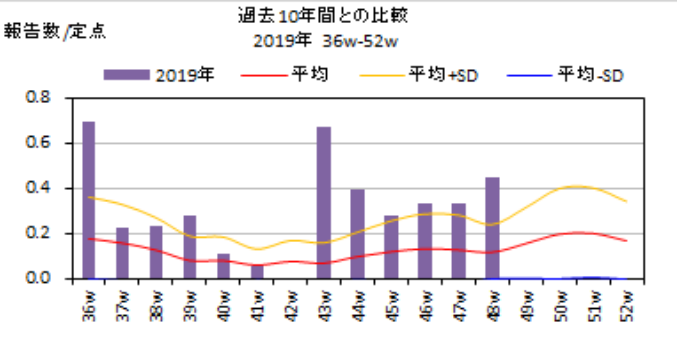


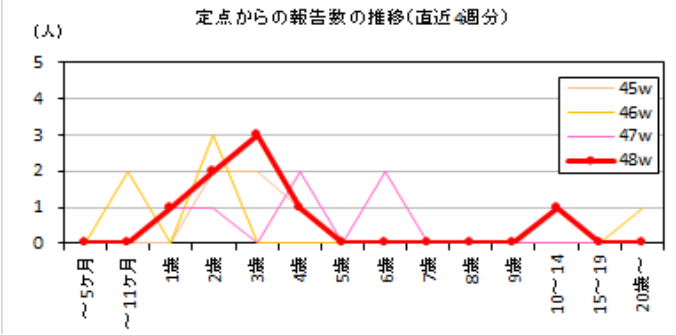


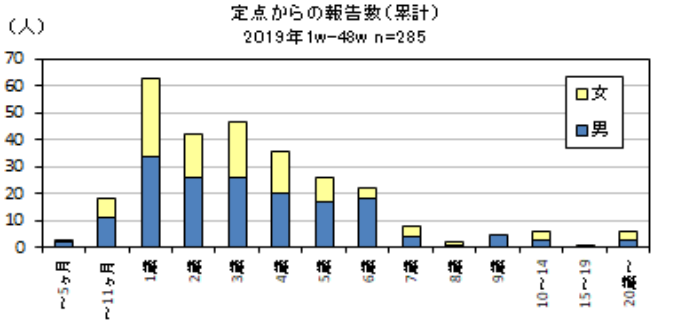
＜咽頭結膜熱＞

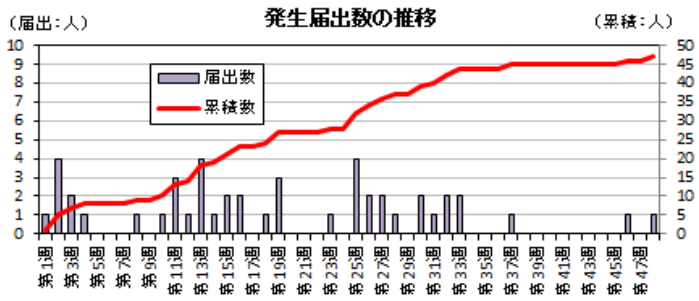
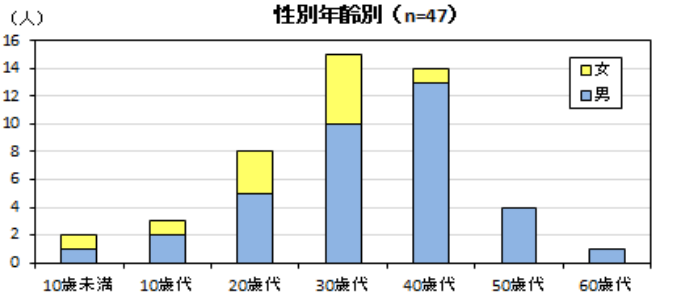
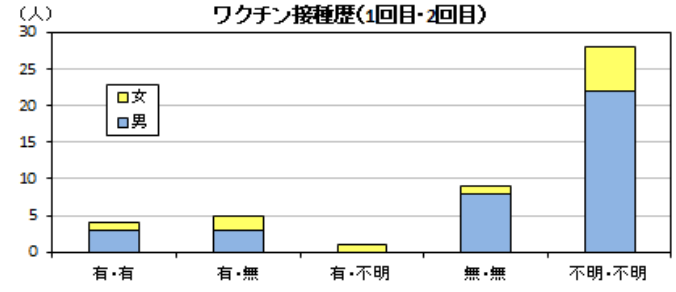
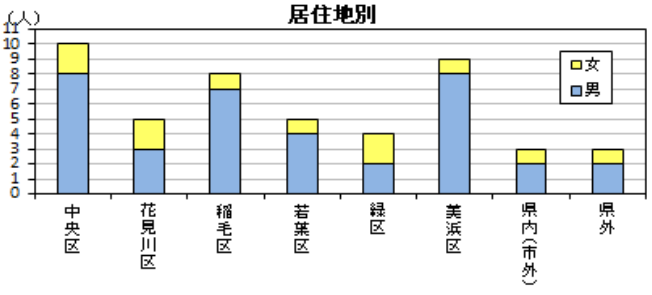
全国レベルの第47週の定点当たりの報告数は0.55となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では佐賀県、鳥取県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.38で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市では第43週から過去10年の同時期と比べて高い水準で推移しており、第48週は前週より増加し0.44となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区（1.50/定点）で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第48週までの累積報告数は285件で、性別では男性が59.6%（170名）、女性が40.4%（115名）となっており、年齢階級別では1歳（22.1%：63.名）、3歳（16.5%：47名）、2歳（14.7%：42名）の順で多くなっています。









＜風しん＞

全国レベルの第47週の累積報告数は2266件となっており、昨年の同時期を下回っていますが、過去10年の同時期と比べると、2013年（14279件）、2018年（2313件）に次いで3番目に多くなっています。都道府県別では東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されており、依然として関東地方で多くなっています。千葉市では第48週に1件の発生届があり、2019年の累積報告数は47件となりました。性別では男性が76.6%（36名）、女性が23.4%（11名）となっており、年齢階級別では30歳代（31.9%：15.名）、40歳代（29.8%：14名）、20歳代（17.0：8名）の順で多くなっており、ワクチン接種歴は無又は不明が全体の8割近く（78.7%：37名）を占めています。